

オスプレイ来るな！三重県民の会代表 西尾比呂也

1月17日防衛省は、日米合同委員会の決定として、滋賀県高島市にある饗庭野（あいばの）演習場での海兵隊と自衛隊の日米合同訓練にあたり、4機のオスプレイ MV-22 が三重県伊勢市の陸上自衛隊明野（あけの）駐屯地を使用すると発表しました。私たちはすぐに「オスプレイ来るな！三重県民の会」を立ち上げ、宣伝資材やビラづくり、防衛省や明野駐屯地、関係自治体への申し入れ行動や県民へのよびかけを急ぎました。記者会見も開きました。

オスプレイは発表よりも2日早く明野に飛来しました。超低空飛行で着陸してきた1機の爆風でみんな畑へ吹き飛ばされました。

4日と5日も現地で開催集会をもち、県外も含めて160人が参加しました。わたしたちは飛来以降、監視行動を続け、離陸するとすぐ高島市の住民に報せました。

日米間の合意では、できるだけ民家や学校の上は飛ばない、夜間飛行や低空飛行はしないとされていますが、実際にはそれらは無視されました。しかもオスプレイは9日まで居座り続けました。発表された予定も米軍の都合でなし崩しに変えられていきました。

いま在日米軍の大きかりな再編と強化が急速に進んでいます。その中身は〈本土の沖縄化〉、〈米軍と自衛隊の一体化〉です。安倍政権下での兵器の〈爆買い〉や大軍拡計画、海上自衛隊の護衛艦「いずも」型の空母化といった動きはその現れであり、今回のオスプレイの飛来もその一環です。饗庭野での自衛隊の演習は実弾射撃の再開を含むだけでなく、高島市内の实在のビルを模擬で仕立て、オスプレイから降り立った隊員たちがそこへ突入して敵から奪回するという極めて実戦的な訓練でした。自衛隊は「専守防衛」の看板を投げ捨てたのでしょうか。このたたかいは自衛隊員の人権を守るたたかい、他国への侵略の加害者にならないたたかいでもあります。

このような最近の日米安保の危険な動きを見ると、米軍が明野駐屯地をオスプレイの常駐基地として使う可能性は高いと考えざるをえません。明野駐屯地は航空学校ですが、周辺住民は日ごろから激しい爆音に悩まされています。そこに常駐するとなると、爆音や低周波音といった被害はあっという間に拡大します。また、陸上自衛隊がオスプレイを購入してパイロットを養成するのではないかとの憶測もあります。そうなれば墜落の恐怖もより増します。

日本の航空法が定めている非常時の安全装置を持たないオスプレイがわが国の空を勝手に飛行できるのは、日米地位協定のせいです。米軍は日本列島をオスプレイの安全性の実験場にしているのではないのでしょうか。地位協定の抜本的な見直しが強く求められます。

明野駐屯地の近くには伊勢神宮や伊勢志摩国立公園が、隣の明和（めいわ）町には斎宮（さいくう）跡地や斎宮歴史博物館が在る、別名「日本人の心のふるさと」という全国有数の観光地です。歴史的な地域にオスプレイは似合いません。地元では「オスプレイ来るな！南勢地区連絡会」が結成され、自治体や観光客と共にたたかおうと決意を固めました。

4機のオスプレイは普天間基地からやってきたのですが、沖縄ではその苦しみは日常であることを痛感しました。その沖縄では県民投票で圧倒的な新基地建設 NO の声が挙がりました。地元の南伊勢町（みなみいせちょう）の芦浜（あしはま）では原発建設をずっと阻止しています。わたしたちは沖縄と芦浜のたたかいに学び、なんとしても戦争の準備を止めようと決意しています。

このビキニデー集会に三重県からは過去最高の13名が参加することになりました。今回の事件が、核兵器をもてあそぶアメリカ帝国主義とそれにつき従う日本の支配層への怒りと結びついたのでと思います。ありがとうございました。